

三八一九番

夕立ゆふだちの 雨あめうち降ふれば 春日野かすがのの 尾花をばなが末うれの

白露思しらつゆおもほゆ

三八二〇番

夕ゆふづく日ひ さすや川かは辺へに 作つくる屋やの 形かたを宜よろしみ

うべ寄よそりけり

右みぎの歌うた二首ふたうた、小鯛こだひのおほきみ王わ、宴居うたげの日ひに、琴ことを取とれば登時すなわちかなら必ず先まづ、この歌うたを吟詠ぎんえいす。

児部女王こへのおほきみの嘘わらふ歌うた一首

三八二一番

うまし物もの いづくも飽あかじを 坂門さかとらが 角つののふ  
くれに しぐひあひにけむ